



45号に引き続き、難病団
体のご紹介をいたします。
病名や病態が広く知られ
ることにより、助け合いな
がら生きてゆける社会を目
指してまいります。

● 公益社団法人 日本リウマチ友の会 千葉支部

支部長 西井 嘉子

リウマチは身近な病気です。リウマチ患者は全国で70万人
いると言われており、その中で女性対男性の比はおよそ4対
1で、女性に多い病気です。

昭和35年、国立伊東温泉病院で治療を受けた152人の
患者で発足し、昭和45年、社団法人認可。平成24年4月、
公益社団法人へ移行しました。会の目的は、リウマチに関
する正しい知識を広め、リウマチ対策の確立と推進を図り、
リウマチ性疾患を有する者の福祉の向上に寄与することです。
47都道府県に支部があり、患者や家族・リウマチ専門医・



医療関係者・ボランティアで構成、現
在約1万6千人います。千葉支部はそ
の支部で、会員数約800名。機関
紙『流』はリウマチに関する最新の情
報や制度などを特別会員の専門医や専
門職が執筆、会員と関係機関に配布し
ています。千葉支部でも支部報を発行
し、講演会の案内や報告を会員に届けています。

また、5年ごとに会員を対象に「リウマチ患者の実態」を
調査し、その結果を「リウマチ白書」にまとめて報告。そこ
には、その時々のリウマチ患者を取り巻く背景が表れており、
数で裏付けられた資料として評価されています。そしてそれ
は、私達の活動の基礎資料となっています。

10年ほど前までは、治らない病気と言われていましたが、
最近では治療薬の進歩により、「寛解」が治療の目標になり、
それを目指した治療が行われるようになってきました。しか
し、治療薬が高価であることや、まだまだ関節破壊の進行な
どに悩んでいるのが現状です。

寛解：治癒ではありませんが、症状が落ちついて安定した状態

● 公益社団法人 日本リウマチ友の会 千葉支部

住所 〒299-0011 市原市姉崎1825-26 西井嘉子方

電話 0436-62-0982

FAX 0436-62-0982



●千葉県スモンの会

事務局長 田村 泰三

昭和30年代末頃から原因不明の奇病と恐れられ、全国各地で多発し、集団発生も見られたスモンの病因が、昭和45年8月、新潟大学の椿教授によって、下痢止め医薬品のなかに含まれていた「キノホルム」によるものであることが突き止められました。



その年の10月、千葉でも二十数名の被害者たちが、失われた生命と健康の代償を求めて「千葉県スモンの会」を立ち上げました。

やがて総勢約60名となった会員は、次々に賠償訴訟を起こし、同会はそのま原告団となります。そして、全国の仲間と共に、以後10年間に及ぶ訴訟運動に参加しました。やがて次々に、全国各地裁で

勝訴し、ついに昭和54年9月、国(厚生省)と製薬会社3社と原告団の間で全面和解が成立、被害者に対する一次賠償金と恒久対策の実施が確認されました。国の難病対策が始まったのも、この時がきっかけでした。

40年の歳月を経た現在、本会の患者会員も3分の1の二十数名に減り、平均年齢は78歳を超えているのではないでしょう。これは悲しむべきこと、というよりは薬害患者団体として、むしろ喜ぶべきことかも知れません。

現在、千葉県スモンの会独自の活動としては、年に一度、一泊二日で親睦を兼ねた総会を開き、患者会員や遺族会員が集まって旧交を温めています。また、毎年秋にはスモン専門医(千葉大学医学部附属病院神経内科)による定期検診が、千葉大学医学部附属病院のほか、県内数か所で開催され、会としてこれをサポートする活動をしています。

■千葉県スモンの会

住所 〒285-0854 佐倉市上座438-92

千葉県スモンの会事務局 田村泰三

電話 043-461-7478

FAX 043-461-7478

メール tzamura@jadeplala.or.jp

● 特定非営利活動法人（NPO 法人） 千葉県腎臓病協議会

理事長 山下 昭博

NPO 千葉県腎臓病協議会の前身である「千葉県腎臓病患者友の会」が発足したのは、昭和46年7月です。透析治療は保険適用こそされていましたが、自己負担は大変大きな額でした。また、透析機器も十分な数が無く、誰もが透析を受けられるものではありませんでした。

そこで千葉大学医学部附属病院で透析を受けていた患者が中心となって患者会を結成し、ほぼ同時に創られた全国腎臓病協議会とともに国や県に対し要請をしました。「人工透析費用の全額国庫負担」、「透析患者の身体障害者認定」、「人工腎臓の増設普及」などの署名を集めての請願活動、また当時の厚生大臣、大蔵大臣との面会等の活動をしました。その結果、翌年には透析患者を身体障害者と認定、更生（育成）医療により患者負担が大きく軽減されました。

その後も、内部障害者のJ-R運賃割引、高速道路料金割引などを実現し、また臓器移植推進のための街頭キャンペーン、毎年10月には腎臓病予防や普及啓発のための講演会「腎臓病を考える会」の開催等を行ってきました。

現在、全国の透析患者は約30万人、全腎協会員は約10万人、千葉県内の透析患者は約1万3千人、そのうち千腎協会員は

3700人。組織率をもっと上げたいところです。透析導入の原疾患の1位は、糖尿病性腎症です。予備軍を考えると大変な数になります。また長期透析による合併症、高齢化による通院や介護の問題も大きな課題です。

〈お知らせ〉

講演会「第26回腎臓病を考える会」

日時 平成25年10月27日(日)午後1時より
会場 京葉銀行文化プラザ 6階(樓)
内容 心臓血管外科からみたCKD(慢性腎臓病) 糖尿病性腎症とフットケアほか
主催 千葉県・NPO 法人 千葉県腎臓病協議会
入場無料 お問い合わせは千腎協へ

● 特定非営利活動法人 千葉県腎臓病協議会

住所 〒260-0041 千葉市中央区東千葉2-6-1-407

電話 043-256-4661

FAX 043-285-4730

メール chijin-kyo@coral.ocn.ne.jp

URL <http://www92.sakura.ne.jp/~chijin-kyo>